

2019 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [東洋女子高等学校] 担当教諭名 [木内 美穂] (1年 87名)

相手国・地域 [ポルトガル]

海外学校名 [Escola Artística de Soares dos Reis] 担当教諭名 [Joege Delmar]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習時間	アートマイルプロジェクト	30

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	SDGs ゴール11:住み続けられる街づくり ・ ゴール15:陸の豊かさを守ろう
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	To have a future, we need to balance today's human lifestyles with nature and take care of the natural and cultural heritage.



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> アートマイルを実施するにあたり、広報・交流・学習・壁画・ポートフォリオ部門を作った。それぞれの部門で自覚と責任をもち、積極的に活動した。 クラス・学年という小単位と海外の他校という大きな単位、両方で協働することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 早い段階で、各部門合同の情報交換をする場を設けると、アートマイル全体のイメージが付きやすかったと思う。 各部門の代表生徒と一般の生徒の温度差をなくす。そのためには各部門の進捗状況をこまめに全生徒で確認する必要がある。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> アートマイルプロジェクトに参加し、“世界の出来事のことをもっと知りたい”と思った生徒は 71%であった。取り組む前に比べ、世界に意識を向けられるようになった。 相手国のことをもっと知りたい、相手国とこれからも交流が続く友好関係を築きたいなどの意見が多数あり、相手国への親近感や思いが強くなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に促すためには、教師も学ばなくてはいけないと強く感じた。また、教師側が楽しみ、伝えたいという気持ちを持つことが重要だと感じた。 各国の社会問題や解決するための取り組みを知り、更に興味を持った。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	6月	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介カード作成 東京、巣鴨、本校の紹介を英語で作成 Skypeセッション(自己紹介、地域や学校紹介) 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒は Skype セッションが初体験である。戸惑いながらも英語を駆使し、頑張って交流をしようとしていた。相手校の生徒の顔が見え、笑顔で受け入れてくれたことを喜んでいました。 	総合4
共有 テーマ学習	7月 8月	<ul style="list-style-type: none"> 調べ学習(ポルトガルはどのような国か) SDGsゴール11・15について考える 壁画について学習(町にある壁画撮影)壁画の意味を考える 広報部門は SDGs、アートマイル、他部門の活動についてポスターにまとめ校内及び学園祭で掲示 	<ul style="list-style-type: none"> SDGsについて知らない生徒が多かったが、議論を重ねるにつれ地球をよくするためにはどうしたらよいかの活発な意見がでてきた。 ポスターに載せる文章、イラストについて、それぞれがわかりやすさを意識して取り組んでいた。 	総合4
融合 メッセージ作成	9月 ～ 11月	<ul style="list-style-type: none"> ビデオメッセージ(Skype で伝えきれなかったことをビデオにした) SDGsについての提案を英訳する → 2回目 Skype で SDGsの本校での活動予定を紹介 ポルトガルからの提案を和訳する活動 世界に向けたメッセージを考える、メッセージを英訳する Xmas カード作成 	<ul style="list-style-type: none"> 学習チームの考えたメッセージを正確に伝えようと努力した。 よりキャッチなメッセージを作るために単語・表現を工夫することによって相手に伝えることを意識するようになった。 相手校生徒と学習以外の交流を楽しんだ。 	総合8
創造 壁画制作	11月 12月	<ul style="list-style-type: none"> 壁画アーティストによるワークショップ(壁画作成前に一つのをみんなで作る体験)を2回実施(壁画部門・学年全体) 下絵作成へ向けたディスカッション 下絵制作→下絵を写す→色付け→裏にサイン 壁画に関するアンケート実施(学年全体) 	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップを行って個性を尊重しつつ、調和のとれた一つの作品を作る楽しさと難しさを体験した。 ただ絵を描くのではなく、なぜこのモチーフなのか、構図なのかといったことを考え、一つ一つの意味を考えるようになった。下絵を模写する際、互いを尊重することの重要性に気づいた。 	総合12
評価 振り返り 自己評価	2月	<ul style="list-style-type: none"> 交流、学習、壁画、広報各部門で振り返りをし、学年全体にアンケートを実施 	<ul style="list-style-type: none"> 両国の完成された壁画のお披露目会では、感動と協働の達成感を味わうことができた。 	総合2

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	4	日本や東京について伝えるためには、まずは情報を収集することが大切だと感じたようだ。
異文化を理解する力	4	相手の国や学校について、もっと質問したかったと感じているようだ。
情報活用能力 (収集・まとめ・発信)	4	英語で相手に自分たちの考えていることを伝えられるように調べる姿勢が見られた。街にある壁画探しの課題は、想定以上によくやっていた。
コミュニケーション力 (双方向・共感・英語)	4	Skypeでのやりとりは難しかったようだ。ビデオメッセージでは伝わりやすいように練習している様子が見られた。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	4	相手校とのやりとりでは感じる事ができなかった。本校の各部門では、積極的な意見交換が見られた。
主体的に考え行動する力	4	各部門の活動の中で、リーダーシップをとる生徒が出てきた。
他者と協働する力 (学級内・海外の相手)	5	クラス・学年で協力する姿が見られた。特に、各部門の生徒はミッションを成功させるために、部門内や他の部門の生徒と連携し協働していた。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	壁画を描く一連の流れ。またモチーフや色あいを決めるとき、自分たちの想いにあったものを選んでいった。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	4	発言の中に相手を認めること、自分たちの課題を見つける力を感じた。